

JAPAN CANCER SURVIVORS DAY 2025

参加者アンケート結果



2025/7/23 作成

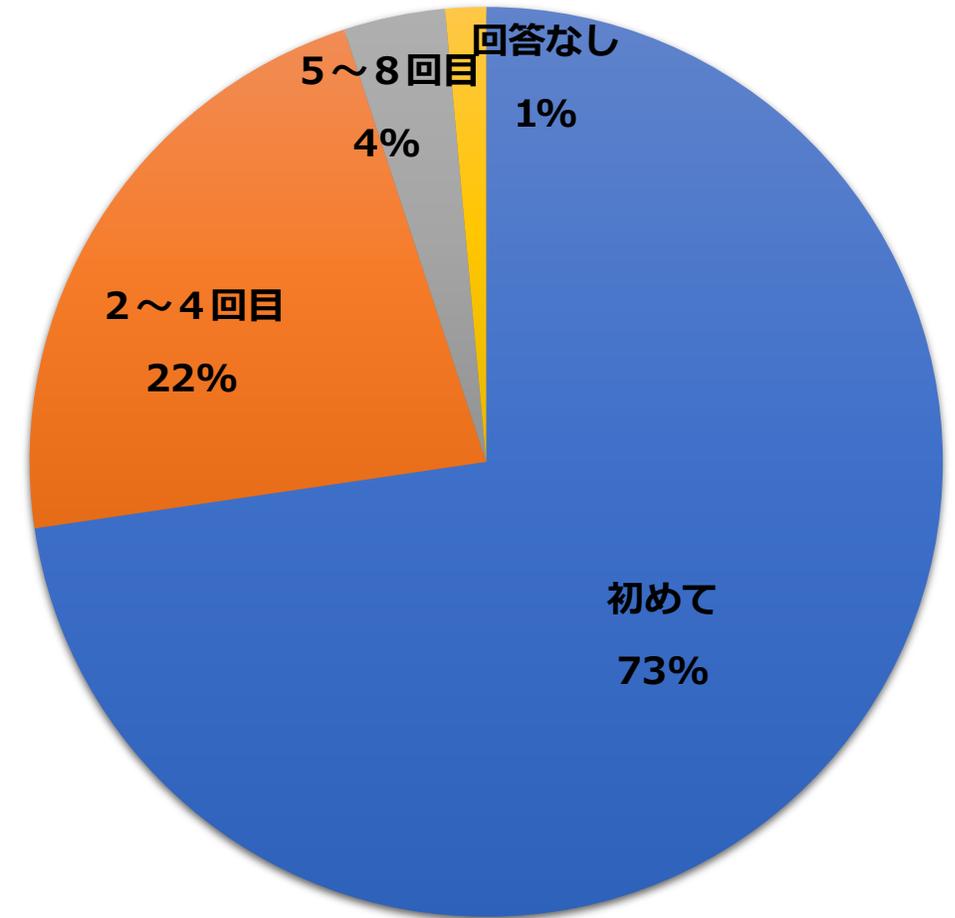
イベント 開催日時	2025/6/1（日）10:30～16:00 国立がん研究センター 築地キャンパス 研究棟
アンケート実施期間	2025/6/1（日）～2025/6/10（火）（10日間）
アンケート回収方法	WEB・紙
イベント参加者数	318名
アンケート回答者数	139名

※いただいた感想は、個人が特定できない状態で誤字含めできるだけ原文で載せています。

【1】 ジャパンキヤンサーサバイバースデー（以下JCS D）のご参加は何回目ですか？

	参加回数	割合 (%)
初めて	101	73
2～4回目	31	22
5～8回目	5	4
回答なし	2	1

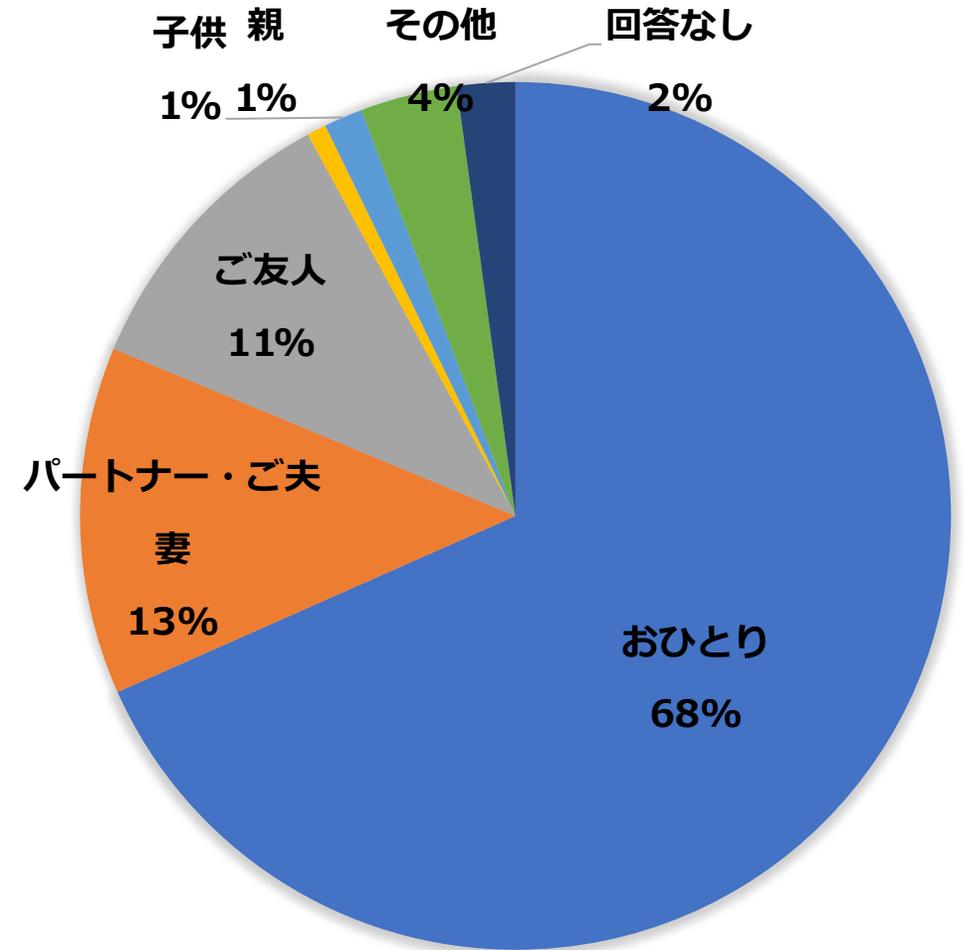
8回目（オンライン開催含む）の開催となりますが、初めて参加したと回答した方が7割を超えました。



N=139

【2】 本日はおひとりでいらっしゃいましたか？ どなたかといらっしゃいましたか？

	人数	割合 (%)
おひとり	96	68
パートナー・ご夫婦	18	13
ご友人	15	11
親	1	1
子供	2	1
その他	5	4
回答なし	3	2

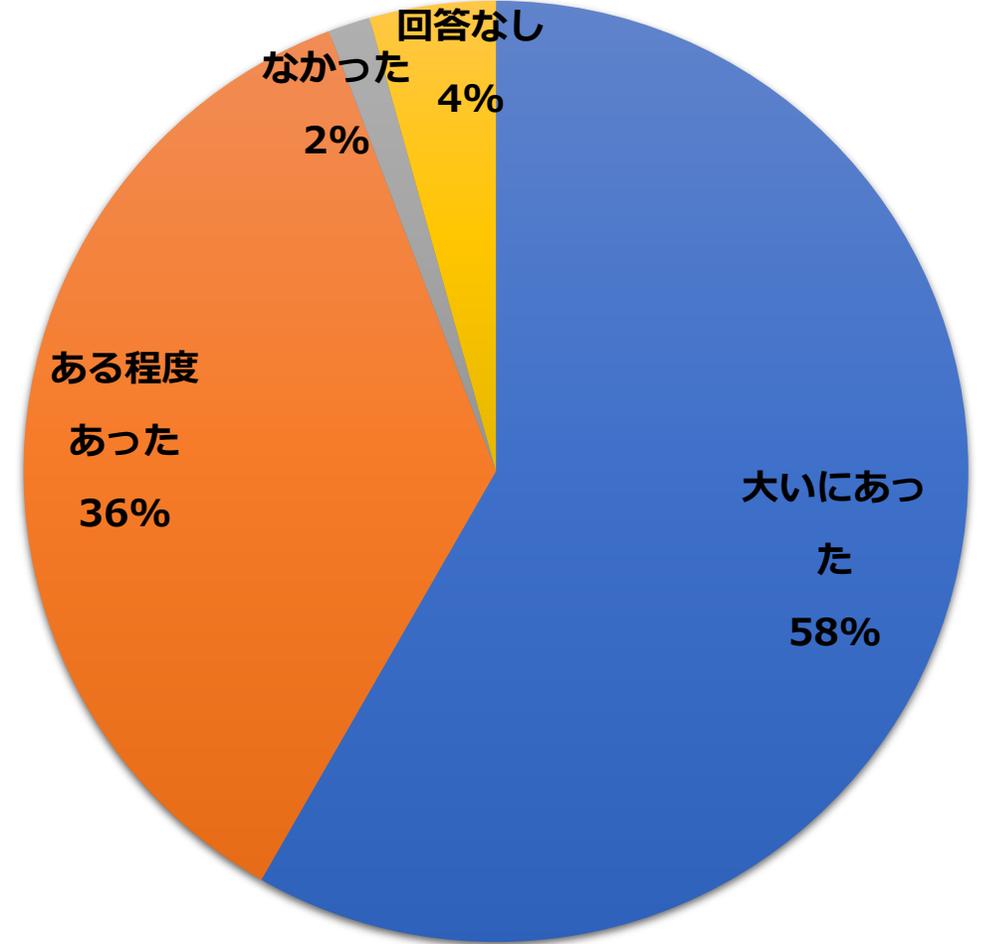


おひとりでの参加と回答した方が約7割でした。
また、パートナーや友人など複数名で参加した方も約3割でした。

N=139

【3】ご自身にとって参考となった情報はありましたか？

	人数	割合 (%)
大いにあった	81	58
ある程度あった	50	36
なかった	2	2
回答なし	6	4



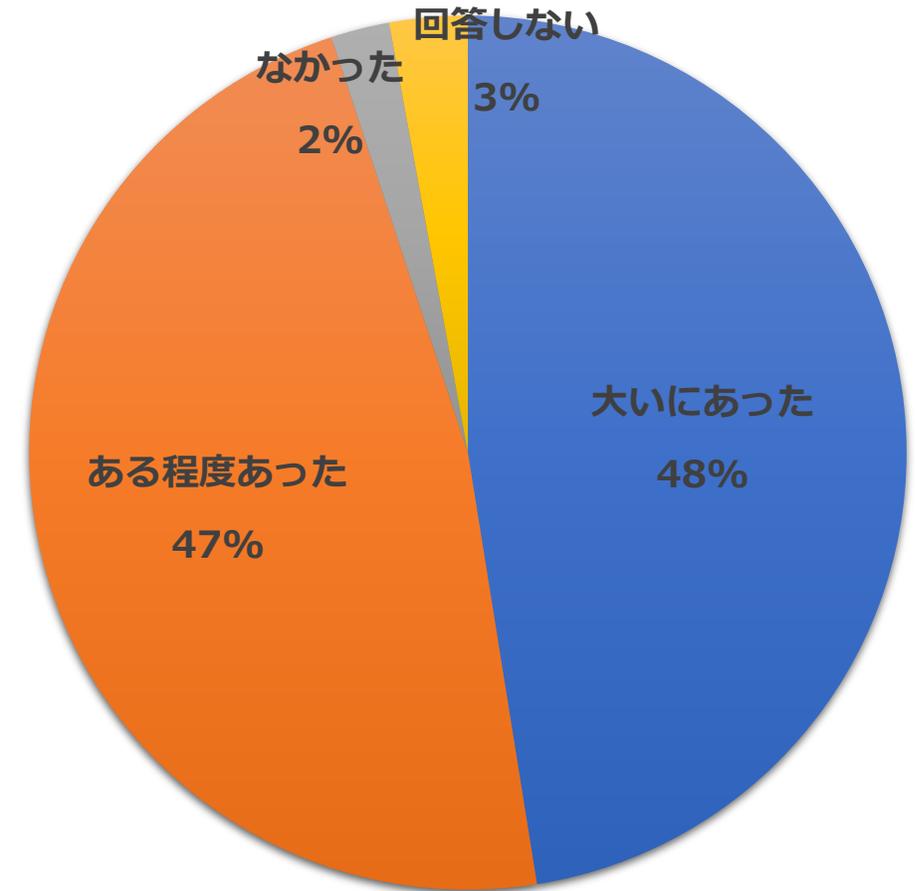
大いにあった、ある程度あったと回答した方が全体の9割以上でした。

N=139

【4-1】 参加したことにより気づきやお気持ちの変化はありましたか？

	人数	割合 (%)
大いにあった	66	58
ある程度あった	66	36
なかった	3	2
回答しない	4	4

イベントに参加したことで気づきやお気持ちの変化があった方が全体で9割を超え、なにかしらの気づきやお気持ちの変化があったという結果になりました。



N=139

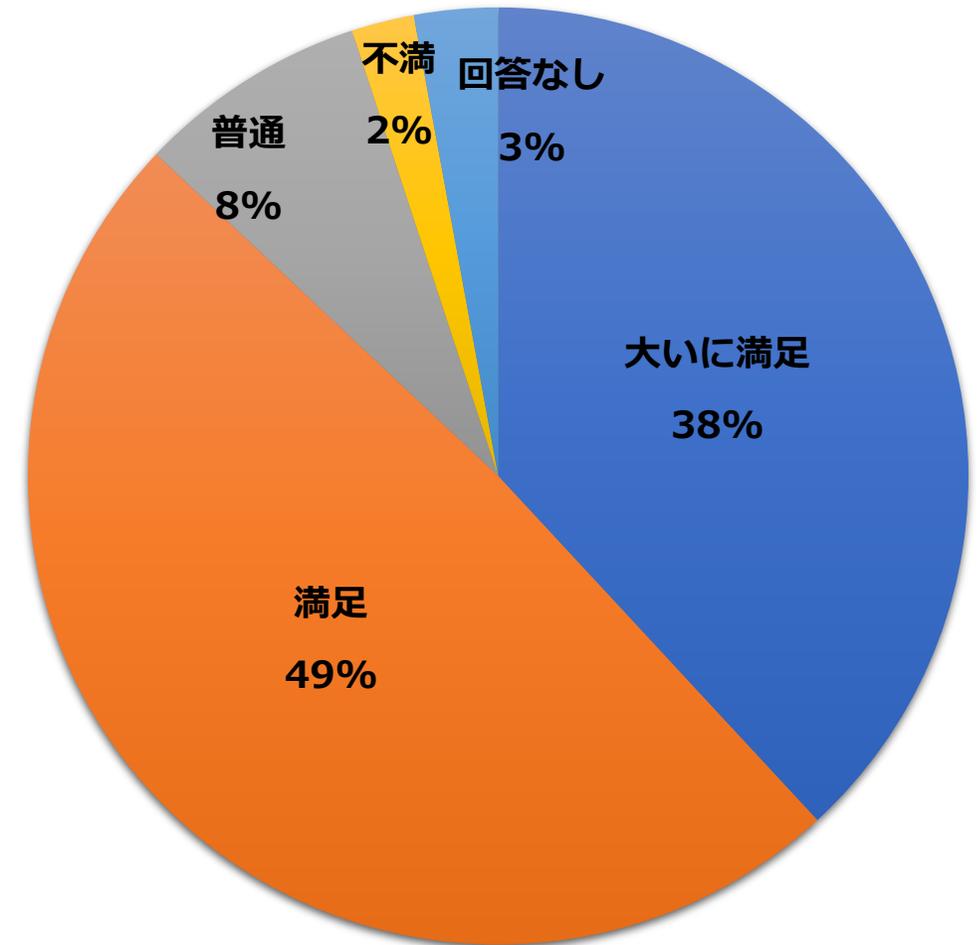
【4-2】大いにあった・ある程度あった回答コメント（一部抜粋）

- ・転移2年目で今後の治療について悩んでいる時で、本当に一番知りたいテーマの講演でした。
- ・化学療法は副作用が強く、治療の選択肢は限られていると思っていました。選択肢は広がっている。今後、更に広げていくためには、当事者、現場、周囲の動きも必要だと感じました。
- ・介護の仕事をしています。身近な人、ご利用者、がんの診断を受けた方が増えています。どう関わらせて頂くか悩んでいましたが沢山の学び・気づきを頂きました。
- ・がんと診断された時の相談や心のケア等の活動がある事は知っていましたが、治療を続けていて、再発・転移した時にも、そういう活動がある事を初めて知りました。病気、治療のつらさ以外に配偶者の理解のなさ等ストレスをかかえていても、今日の講演やブースのスタッフさんと話しをした事で心が軽くなりました。
- ・自分が何を一番気にしているのかに気付くきっかけとなり、心と頭の整理ができました。また相談窓口やサポート団体はなんとなくハードルの高さを感じていましたが、ブースやセミナーで話をお聞きして、相談してみようかな、と思うことができました。
- ・私は治療中だけでも、再発された方々が前向きになる様な活動をされていて、自分ももっと前向きにできる活動ができるかもしれないと思った。
- ・病気を発症して半年、抗ガン剤を打ちながら、日々前向きにくらしてますが、いろんな課題も出てくるので、その解決法のヒントになる事案も多くあった。

【5】 イベント全体の満足度はいかがでしたか？

	人数	割合 (%)
大いに満足	53	38
満足	68	49
普通	11	8
不満	3	2
回答なし	4	3

全体で大いに満足・満足と回答した方が8割を超えました。
一方で普通・不満との回答もありました。



N=139

【6】今後取り上げて欲しいテーマ

治療情報

様々な副作用をどう乗り切っているのか

遺伝性癌を家族親族にどこまで伝えるか、その必要性和フォローアップについて

余命宣告を受けたときどうすればよいのか・どうすべきか

延命治療の際の心の持ち方

今回と同様のテーマを深ぼりした内容で、がん経験者の声も入れて欲しい

副作用に対しての落ち込まない為の工夫やアイデア等

抗癌剤や術後の後遺症、副作用、等について

長い経過観察期間をどう乗り切っていくのか

初めての抗がん剤治療と副作用、その後の治療

転移・再発をテーマに再び

緩和ケアについて

ピアサポートや体験談、その他

単身で家族がいないが、そんな環境でもこれからの参考になる事例やテーマなど

子育て世代のがん患者について

グリーフケアについて

治療を続けて行くにあたり金銭面の参考事例

がん患者への支援、制度。病気があっても働け続けられる社会の取り組みについて
偏見を減らしていくための情報など

家族への支援と、スピリチュアルペインへの対応方法について

キャンサーサバイバーズ当事者からみた、ACP（Advance Care Planning）の意義
と課題

がん患者への接し方

一人暮らしの患者のサポートについて

AYA世代とがんサバイバーの家族の気持ちなど、患者と日常いちばん長い時間を過
ごす家族がどのような思いでどんな援助が必要なのか

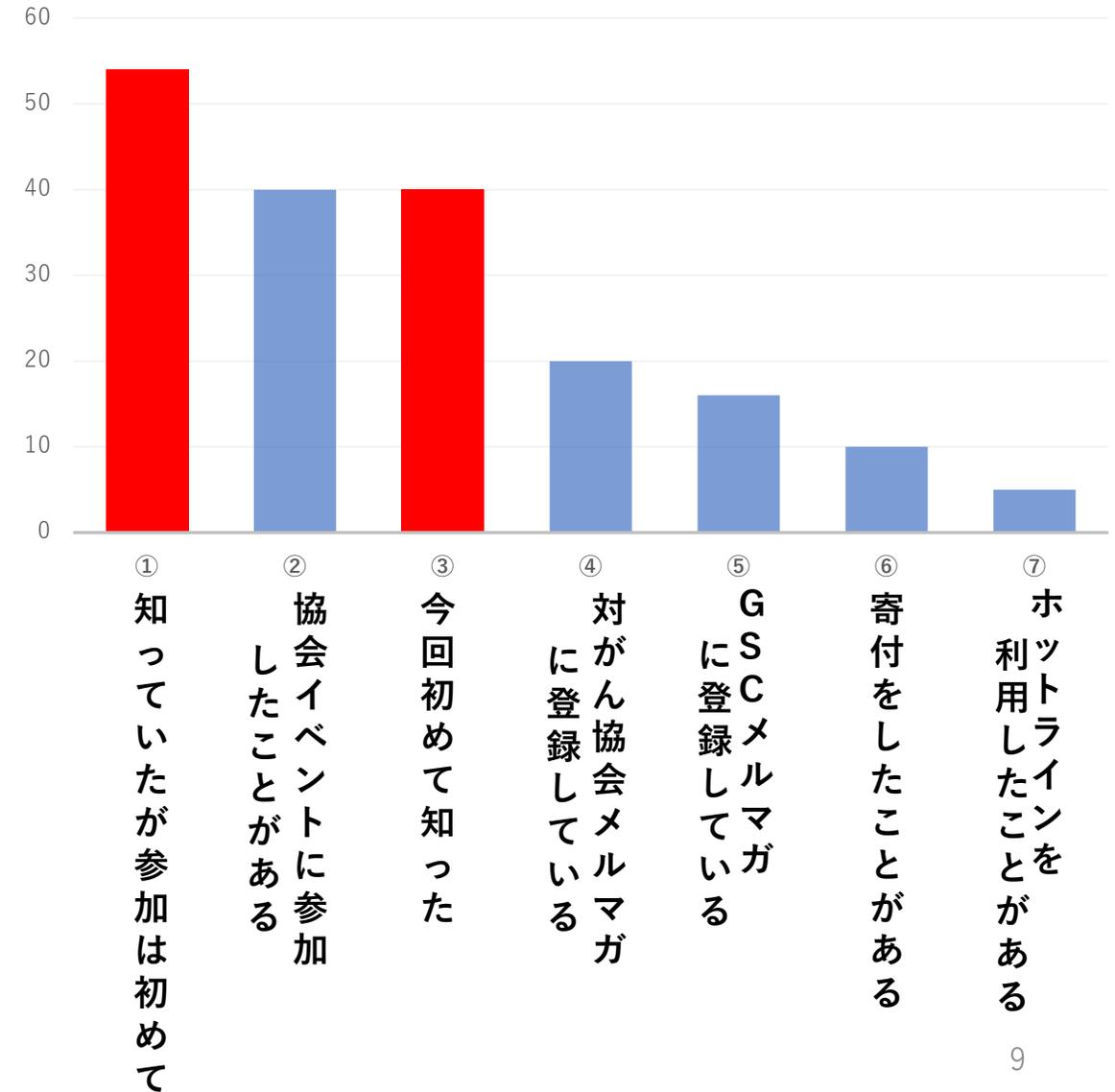
寛解後のメンタリティや日常生活を送る上でのメンタルヘルス

パネルディスカッションなど、参加者が意見を述べられる場

【7】 日本対がん協会についてあてはまるものにチェックを入れてください *複数選択

	回答数
①知っていたがイベント参加は初めて	54
②過去の当イベント以外の協会主催イベントに参加したことがある	40
③今回初めて知った	40
④日本対がん協会メールマガジンを登録している	20
⑤がんサバイバー・クラブ（GSC）のメールマガジンを登録している	16
⑥寄付をしたことがある	10
⑦がん相談ホットラインを利用したことがある	5

日本対がん協会を知ってはいたが、イベント参加は初めての方や、今回初めて知った方に参加いただくことができました。



【8】 その他、イベントに関してお気づきの点などありましたらご記入ください。（一部抜粋）

- ・自分にとって気づきの多い内容でした。開催いただきありがとうございました。
- ・私は病気のごことは周知してないので誰にも相談ができません。
そんな時に相談できる場所がこんなにたくさんあることが知れて本当に良かったです。
- ・構成、時間が丁度良く、落ちついて視聴できました。
- ・入口でのご案内のスタッフさんや受付スタッフさん方の対応がとても丁寧で初めての参加でも安心感がありました。各ブースのスタッフさんも気軽に声かけをして下さり、お話もしやすかったです。
- ・今回たまたまSNSでイベントを知り、初めて参加しました。
事前にしっかり準備して下さってとてもためになるイベントだと思います。
がん患者であっても知らない情報がたくさんあることを知りました。
- ・セミナー会場の席など案内の配慮が好感持てました。話も参考になりました。
- ・講演でメモがおいつかないところがあったので、もし可能であれば昼休み中でもスライドをゆっくりめに流していただければありがたいです。

サマリー（まとめ）

8回目となる「JAPAN CANCER SURVIVORS DAY」は、「がんとともに生きるー転移・再発した私の『わたしらしく』を考えるー」をテーマとし、こころや身体にさまざまな変化がおこる中で、「わたしらしく生きる」とはどのようなことなのかを、参加者の皆様と共に考える場にといい思いで開催いたしました。

来場者数は318名と多くの方にご参加いただきました。その中でもイベントへの参加が初めてという方が7割を超えました。「転移・再発」という難しいテーマでしたが、多くの方が関心をお持ちの重要なテーマだということをおたくしたち自身改めて気づくことができました。初めてご参加いただくことで、がんサバイバー・クラブだけでなく、日本対がん協会の活動にも触れていただくきっかけとなりました。

イベントの満足度は8割以上となり、また参加後の気持ちの変化についても、9割以上の方に「気づきや気持ちの変化があった」とお答えいただきました。「イベント全体としては、取り上げるには難しい内容だったと思うが、わかりやすくポイントを絞って説明されていて理解できた」や「がんに罹った時に、それで終わり…ではない事を改めて実感できた」「自分が何を一番気にしているのかに気付くきっかけとなり、心と頭の整理ができた」「これからの漠然とした不安が少しやわらぎました。またがんばらないでがんばろうと思えました」などのお声もありました。

がんで苦しむ人や悲しむ人をなくしたという日本対がん協会の使命のもと、今後もサバイバー・ご家族のお悩みや関心ごと、また社会の変化や流れにも気を配りながら、情報や各種支援をご提供していきます。